

被災地の歴史資料・文化財の保全、震災の経験の記録化と保存!!
幅広いネットワークづくりを通じて、歴史・文化を復興に活かす!!
被災地から全国へ、歴史学と社会をめぐる普遍的な課題へ!!

史料ネット News Letter

特別号 2004年8月9日(月)発行 歴史資料ネットワーク(神戸大学文学部内)



- (上) 7/25 現地での被害の様子
- (中左) 7/25 福井史料ネット結成(於: 福井県文書館)
- (中右) 8/1 第1回現地調査
(於: 今立町歴史民俗資料館)
- (下) 7/25 一乗谷朝倉氏遺跡資料館



福井豪雨の被災歴史遺産保全活動と 支援募金へのご協力をお願い

歴史資料ネットワーク事務局長 松下正和

2003年7月18日未明から福井県への集中豪雨により福井市や鯖江市、美山町、今立町、池田町の谷筋を中心とする地域に、床上浸水4,333世帯、床下浸水9,866世帯の被害がでています。また、全壊68世帯、半壊151世帯、一部損壊117世帯の住宅被害や死者3名、行方不明2名、負傷者17名の人的被害もあり近年の水害の中では大きなものとなっています(8月1日11時県庁発表の資料より)。



7/25 現地の被害状況

被災地にお住まいの会員の皆様に対しまして、謹んでお見舞い申し上げます。

事務局では、20日からマスコミと歴史関係機関にお見舞いと史料保全を要請するFAXを送付しました。25日には史料ネットから福井出身の大国正美運営委員と山本陽一郎さん(神大M1)、松下の3名が福井入りをし、福井県文書館にて現地の歴史関係者と協議をおこない、地元研究

者・歴史関係機関が中心となって福井史料ネットワークが結成されました。その結果、『福井新聞』や『神戸新聞』でも取り上げられました。(4頁を参照)

8月1日には、福井史料ネットによる第1回目の現地調査として、今立町大滝・岩本地区の巡回調査がおこなわれました。福井側からは県文書館柳沢芙美子さん、県立歴史博物館澤博勝さん、県立図書館長野栄俊さんや敦賀短期大学の多仁照廣さんの4名が参加し、神戸側からは奥村弘代表、河野未央事務局員、山本陽一郎さん、松下の計8名で調査をおこないました。今回の調査では、今立町歴史民俗資料館や地元区長の皆さんの協力を得ながら、福井史料ネットにより作成された史料調査台帳をもとに、被災地域の史料所蔵者のお宅を訪問し、家屋や蔵、史料の被災状況についてお話を伺いました。調査は、11時から15時頃までおこなわれました。蔵が浸水し史料が水損したお宅もありましたが、まだ蔵をあける状態ではないとのことでレスキューするには至りませんでした。訪問先では、今後整理作業を行う際には連絡をしてほしいと、福井史料ネットのビラを配布し依頼をしてきました。途中2班にわかれ計22件ほどの史料の現状確認をおこなうことができました。しかし、1日で調査できたのも今立町内のごく一部であり、福井県内には福井市内をはじめとして鯖江市、美山町、池田町など多くの被災地域があります。

阪神・淡路大震災などこれまでの震災後の活動と同様に、今回もボランティア保険加入料を始め様々な経費が必要です。特に今回の被災地では、救出活動で大きな役割を果たすべき大学が少なく、したがって敦賀や金沢など遠隔地からの参加者が多くなります。そこで、活動に参加する学生・市民ボランティアに対しては、交通・宿泊費など必要最小限の補助をしたいと考えています。地震とは異なり、水害の場合、泥水に資料が浸



8 / 1 堤防決壊の現場

かっているために廃棄されるケースは一層多いと予想され、また水損資料をそのまま放置するケースは少なく、ゴミ処理・残土処理がすすむとともに廃棄されるスピードはより速いと考えられます。さらには、災害救助法が適用された地域を中心に、住宅再建支援金の支給も始まったこともあり、建物の解体も一層進みつつあります。こうした家屋の解体に際して史料が廃棄されてしまうのを防ぐためにも、活動を一刻も早く進める必要があります。

つきましては、被災した地域歴史遺産の救出・保全活動の必要性について是非ともご理解を賜り、現地の地域歴史遺産保全の活動を支えるための募金をお寄せいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

福井豪雨 被災史料救出活動支援募金（郵便振替）

口座番号：00930-1-53945

加入者名：歴史資料ネットワーク

振替用紙に福井カンパとお書きください。

【問い合わせ先】

福井史料ネットワーク

- ・代表 松浦義則・福井大学教育地域科学部教授
- ・副代表 多仁照廣・敦賀短期大学日本史学科教授
- ・事務局電話：090-9766-1553 事務局 e-mail：fukui_siryonet@yahoo.co.jp
- ・被災資料についての相談連絡先 福井県文書館（TEL：0776-33-8890）

歴史資料ネットワーク(代表 奥村 弘・神戸大学助教授)

〒657-8501 神戸市灘区六甲台町 1-1 神戸大学文学部内

TEL&FAX：078-803-5565（平日 13時～17時）

URL：<http://www.lit.kobe-u.ac.jp/~macchan/> e-mail：s-net@lit.kobe-u.ac.jp

古文書捨てないで

神戸の団体 保存方法を出張相談

「泥水で汚れたからといって古文書などの歴史資料をゴミと一緒に捨てるのは、福井県内の歴史資料の歴史に貴重な史料が散失する事態を助長するため、福井市のボランティア団体「歴史資料ネットワーク」代表・奥村弘伸神戸大助教授が被災者に呼び掛けている。

同ネットは、阪神淡路大震災後に、京都府の大学で日本史を研究する教員や学生らが一九九五年に結成。全国の地震や津波の被災地で同様の史料保全活動を進めてきた。

旧家の蔵などに眠る古文書や石造物、掛け軸、写真といった史料は被災住宅からのごみやがれきの撤去、解体の際に捨てられたり、損壊するケースが多い。住人が史料の価値や存在を知らなかったり、知っていても泥や水で汚れたから、という理由で廃棄されやすいという。

同ネットでは「文化財指定の有無にかかわらず、歴史を後世に伝える上であらゆる史料に価値がある。捨てずに保管してほしい」と強調。紙の

汚れても歴史的価値

史料は汚れていても清潔で壊らなければ、カビが生えて風化することを防ぐと説明している。

個人や自治体から依頼があれば、同ネットのメンバーである歴史研究家が出陣し、保存方法や史料価値について相談に乗る予定。

問い合わせは歴史資料ネットワーク（TEL）078-8003-5888。平日の午後一時から同五時まで。アドレスはhttp://www.history.kobe-u.ac.jp/~mabochi/

2004年(平成16年)7月22日(木曜日)

福井新聞

2004年(平成16年)

7月22日(木曜日)付

福井新聞社提供

神戸新聞

2004年(平成16年)

7月26日(月曜日)付

神戸新聞社提供

被災古文書を救え!

保存・修復部隊 福井史料ネット発足



定で汚れた歴史資料の救済を防ぐための「福井史料ネット」のメンバー25日、福井市の県文書館

本書を受け、歴史活動グループが呼び、福井県史料ネットに相談窓口を開く。福井県内各地で汚れた古文書などの取り扱いは、福井史料ネットが、復旧作業での貴重な資料の散失を防ぐ。阪神淡路大震災以来、全国の地震や津波被災地で資料保全活動に取り組みしているボランティアで構成。県文書館を電話で相談し、泥水で汚れたハタケテリが資料を

「代表、奥村弘伸神戸大助教授」が県や市内の大学に呼び掛け、発足のメンバー3人が福井市一帯の被災地を視察した。関係者10人と県文書館で対応を協議。各地で資料の現状を調査する必要がある。福井大の教員、学生が、復旧作業が進行中で、難しい。泥にまみれたハタケテリが資料を

「福井大の教員、学生が、復旧作業が進行中で、難しい。泥にまみれたハタケテリが資料を」

福井新聞

2004年(平成16年)7月26日(月曜日)

「福井史料ネット」のメンバー25日、福井市の県文書館で発足式を行った。福井史料ネットは、被災地での歴史資料の救済と保存を目的として発足した。福井史料ネットは、被災地での歴史資料の救済と保存を目的として発足した。福井史料ネットは、被災地での歴史資料の救済と保存を目的として発足した。

福井新聞 2004年(平成16年)7月26日(月曜日)付

福井新聞社提供

水害地に 教訓継承

■ 集中豪雨禍の福井 ■

被災史料保全ネット発足

神大助教授ら呼び掛け

阪神・淡路大震災を教訓に被災地を支援する歴史資料ネットワーク代表・奥村弘伸神戸大助教授が、福井県内各地で被災した歴史資料の救済と保存を目的として「福井史料ネット」を発足させた。福井史料ネットは、被災地での歴史資料の救済と保存を目的として発足した。福井史料ネットは、被災地での歴史資料の救済と保存を目的として発足した。

福井史料ネットは、被災地での歴史資料の救済と保存を目的として発足した。福井史料ネットは、被災地での歴史資料の救済と保存を目的として発足した。福井史料ネットは、被災地での歴史資料の救済と保存を目的として発足した。

芦屋の歴史をたどる

～ 尼崎藩と灘目の村々 ～

主催 = 歴史資料ネットワーク

後援 = 神戸大学文学部地域連携センター

兵庫県教育委員会（申請中）

芦屋市立美術博物館（申請中）

いまでは「モダンな雰囲気漂う閑静な住宅街」というイメージが先行する芦屋地域にも、江戸時代以前の古い歴史がありました。そんな江戸時代、とくに尼崎藩領下の芦屋地域について、地域に遺された古文書から学ぶとともに、それら歴史資料の保存と活用の意味について考えてみたいと思います。

日時 平成16年9月5日（日）午後1時～5時

場所 芦屋市民センター401号室

〒659-0068 芦屋市業平町8-24 0797-31-4995

JR 芦屋・阪急芦屋川・阪神芦屋各駅より徒歩約5分

参加費 500円

講演

岩城 卓二氏（大阪教育大学助教授）

明尾 圭造氏（芦屋市立美術博物館学芸員）

参加申し込み方法：電話・FAX・はがきのいずれかで下記史料ネットまでお申し込みください。FAX・はがきでのお申し込みの場合は、住所・氏名・年齢・電話番号をお書き添えください。

申し込み先 歴史資料ネットワーク（史料ネット）

〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1

神戸大学文学部地域連携センター気付

TEL & FAX 078-803-5565（平日1時～5時）

e-mail: s-net@lit.kobe-u.ac.jp

URL: <http://www.lit.kobe-u.ac.jp/~macchan/>

個人会員への入会と“News Letter”購読のお願い

史料ネットの活動に平素からご協力いただき、ありがとうございます。
歴史資料ネットワークは、改組後も引き続き“News Letter”を年4回発行いたします（年間購読料：郵送費込み1000円）。改組とともに今後内容を更に充実させる努力を重ねて参ります。皆様方には引き続きご購読いただきますよう、よろしくお願い致します。

また、表題にもありますように、ニュースレター会員・贈呈読者の皆様には是非とも個人会員へのご入会（年会費：個人会員5000円、学生・院生会員は半額）ないしサポーター（一口3000円以上）としてご支援いただき、史料ネットの発展にご理解・ご協力を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

史料ネット 郵便振替口座

名義：歴史資料ネットワーク

口座番号：00930-1-53945

史料保存関係のホームページ“Archivist in Japan”を開設している小林年春さんのご協力により、史料ネットの情報を同ホームページに連載していただいています。

<http://www.archivists.com/> または <http://member.nifty.ne.jp/archivists.com/>
または <http://www.asahi-net.or.jp/~hm7t-kbys/archivists/>

史料ネット NEWS LETTER 特別号

編集・発行 歴史資料ネットワーク

〒657-8501 神戸市灘区六甲台町 1-1 神戸大学文学部地域連携センター気付
史料ネット神戸センター

TEL&FAX:078-803-5565 (開室時間 平日の午後1時? 5時)

URL:<http://www.lit.kobe-u.ac.jp/> macchan/ e-mail:s-net@lit.kobe-u.ac.jp